

メッセージアウトライン

マタイの福音書1:1~16 「救い主の系図を飾る女性たち」

[1] 「アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図」

1節以下16節まではイスラエル民族の祖先アブラハムからキリストに至る系図である。アブラハムからキリストに至るまで約2000年の時が流れている。この系図の中に注目すべき二人の女性の名があげられている。その一人はラハブである。(5節) アブラハムは紀元前2000年ごろの人であるが、それから約700年ほど時代が下って、長らく寄留し、苦しめられていたエジプトを脱出したイスラエルの民が40年のシナイ半島の荒野の旅を終え、約束のカナンの地へ入った時のことである。東からヨルダン川を越えて入って来るイスラエル人にとって最も近い町はエリコであった。イスラエルの指導者ヨシュアは二人の斥候(偵察要員)を送り、町の様子を探らせた。→ヨシュア記2章 この時ラハブはカナン人でエリコの町の住民、しかも彼女は遊女であった。しかし、彼女は二人の斥候をかくまった。それは彼女がイスラエルの神を知り、この神こそ真の神であると信じていたからである。人間の作ったむなし神々には紅海を分けたり、出エジプト記や民数記に書かれているような力あるわざはできない。それで彼女はイスラエルの神を信じたのである。イスラエルの民はもう目前にまで迫っており、このままでは町が滅ぼされてしまうことは必至。それで彼女は二人の斥候を助ける代わりに自分とその家族、親族のいのちを守ってくれるように願った。斥候は脱出のために彼らをつり下ろした窓に赤いひもを結びつけ、その家にラハブの身内の者全部を集めておくように命じた。その中にいる者はイスラエル軍が攻撃してきた時でも、その赤いひもの目印で助かるのである。

そして、主の力によってエリコの城壁が崩れた時、イスラエル軍はいっせいに町に攻め込んだ。しかし、ラハブとその親族はみな助かったのである。→ヨシュア6:20-25

ラハブはこの後、イスラエル人とともに住み、結婚して子供を産む。マタイ1:5によれば夫の名前はサルモンで、あの二人の斥候のうちのひとりであったと考えられている。ラハブは異邦人であったがイスラエルの神を信じる信仰によってイスラエル人に加えられたのである。彼らの間に生まれた子どもはボアズという。このボアズが大人になった時に登場してくるのがルツである。

ルツ記1:1-18によれば、ルツは死海の東側の地に住むモアブ人であった。彼女は飢饉を逃れてやって来たエリメレクという人の上の息子マフロンと結婚した。下の息子キルヨンは同じくモアブ人のオルパと結婚した。しかし、それから10年の間にエリメレクもマフロンもキルヨンも死んでしまった。残ったのはエリメレクの妻ナオミとルツとオルパだけであった。ナオミは故郷のベツレヘムへ帰ろうとして二人の嫁にそれぞれ実家に帰って再婚してしあわせに暮らすようにと別れを告げる。それでオルパは帰っていったが、ルツはナオミにすがりついて決して帰ろうとはしなかった。彼女の決心は固かった。ルツは10年間ナオミの家族として暮らすうちにイスラエルの神を自分の神として堅く信じる者となっていたのである。

1:19~2:16 二人はベツレヘムへ着くが、ナオミは年を取っていたのでルツが生活

のため、畑へ落穂拾いに行くことにした。ルツが行ったのははからずもエリメレク
の一族に属するボアズの畑であった。ボアズはルツのことを聞いており、親切にし
てやった。

3:1~4:22 姑のナオミはルツにボアズと結婚することを勧める。ボアズはルツの結
婚の申し出を受け、彼女と結婚することを決心するが、エリメレクの畑の買戻し
のことで一番近い親類と交渉する必要がある。畑を買い戻すということは、死ん
だ者の名をその相続地に起こすということであり、死んだ者の妻であったモアブの
女ルツをめぐって妻としなければならない。そして生まれた子どもにその地を継が
せなければならない。これを聞いて親類は断った。それでボアズは正式に証人
たちの前で土地を買い取り、ルツを妻とすることを誓った。このようにしてボアズ
はルツと結婚し、この二人の間に生まれたのがオベデである。そしてこのオベデは
ダビデの父エッサイの父となるのであった。

このようにしてアブラハムからダビデ、そしてイエス・キリストへと続いていく系
図の中に二人の異邦人女性がその名をあげられ記録されている。これは彼女たちの
名前と信仰が決して忘れられないためである。

アブラハムは神を信じて行き先を知らないで出て行った。この二人の女性も異邦人
でありながら、イスラエルの神をまことの神と信じてその信仰によって、先のこと
はゆだねて踏み出した。その結果はアブラハムと同様に豊かな祝福と恵みを受ける
者となり、救い主の家系に連なる名誉を与えられる者となった。

私たちもラハブとルツと同じ異邦人であるが、彼女たちと同様に真の神を信じ、神
の子、救い主イエス・キリストを信じる信仰を持つことができ、すばらしい報いと
祝福を受けることができるのである。